



〒369-0212 埼玉県深谷市櫛挽 15-2

電話 048-585-0605

FAX 048-585-0562

Mail san-ai@isis.ocn.ne.jp

URL <http://www.san-ai-jidouyougo.net>

社会福祉法人 三愛学園

児童養護施設 さんあい

第128号

2019年10月 10日

三愛学園 広報タスク



人を愛することは

さんあい 施設長 高瀬一使徒



様々なキリスト教の理念の中で、三愛主義の特筆されるところは、「土を愛する」という事です。この「土」という意味は、団体や個人のレベルで様々な意味に適応されています。「土を愛する」ことを文字どおりに実践しておられる農家の方々や団体もありますし、「土」を自然と捉たり、自分の置かれている場所や地域、国や地球全体の環境と捉えることも可能です。

では、さんあいはどのような捉え方をしているのでしょうか。さんあいでは、「土」を2つの意味に捉えています。1つは、文字通りの自然の土です。神様が創造された自然に感謝し大切にします。園には小さな畑があり、一年を通じて子どもたちに土に親しんでもらい、その豊かさや恵に感謝する気持ちを養ってゆこうと考えています。癪癩を起して暴れている子に対して、「畑に大根をとりに行こう。」と声をかけ、土に触れさせることにより気持ちが和らぐ時があります。自然は人間の心を癒す力を持っています。

2つ目の「土」の意味は、「生活全般」と捉えています。つまり「生活を大切にする」と言い換えできます。さんあいでは、衣食住を大切にしています。大切にすることは、感謝するとも言えます。良好な生活環境は子どもたちが心身ともに健全に成長する基礎です。すんだ生活環境の中では、子どもは健全に成長できません。

ですので、規則正しい生活を送ることにこだわっています。高校生だから乱れても当然いう考えはありません。「さんあいはルールが厳しい」と感じている子たちもいるでしょう、しかし生活時間と心身の健康は深く関係していますので、生活時間を守るように支援を続けます。

食事は美味しい栄養のバランスを考え、盛り付けのお皿の選択や盛り付けの工夫にも心がけています。また食事の前に感謝のお祈りをします。そして生活の場である居室の使い方は、子どもたちのこだわりを受容しながらも整理整頓を基本に支援しています。ユニットの庭には、なるべく季節の花や野菜を植えるようにして四季の変化を目で感じることができます。

最後に、さんあいで生活がすべて理念の通りにうまくいっているといことではありません。理念や目標と真逆なことが沢山起ることが常です。しかし大きな問題が起った時、職員と子どもたちが問題の解決を探って行く際の指標となるのが理念です。だからこれからも「神を愛し」「人を愛し」「土を愛す」の三愛主義を大切にしてゆきたいと思います。

6月より、社会福祉法人三愛学園の理事長も兼務することになりました。わが器以上の役割であることは自覚しております。しかし、創設者がそうであったように、神様の助けを頂きつつ、一人でも多くの社会的養護の必要な子どもたちの役に立てるよう、社会福祉法人三愛学園の発展に貢献してゆく所存です。皆様の変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

夏休みの思い出

特別部屋外出



女の子ホーム・いちょうは富士急ハイランドに行きました。絶叫マシーン大好き！と張り切っていた小学生ですが、実際乗ってみると怖かったよう…。水がかかるアトラクションを気に入り、みんなびしょびしょになるまで遊びました。山梨県のほったらかし温泉に泊まり、次の日には桃狩りを楽しみました。

女の子ホーム・ポプラは一泊二日で東京ディズニーランドに行ってきました。乗り物やパレードを楽しみ、最後は地震で乗り物が停止してしまうハプニングが起こりましたが、無事に過ごせて何よりでした。ゲストハウスでは小さい子は疲れてすぐに眠っていましたが高齢児は元気いっぱい女子会でゲームをしたりと笑いが絶えませんでした。子ども達も職員も一緒に楽しみ、素敵な夏の思い出になりました。



女の子ホーム・ねむの木の特別部屋外出では東京ディズニーシーとお台場に行きました。初めてディズニーに行った子は世界観に驚き大喜びでした。一日遊び尽くした後は近くの宿泊施設に一泊しました。遊び疲れているはずが1年ぶりの特別部屋外出に興奮気味で、高齢児とは少し夜更かしして恋バナを楽しみました♡女の子の旅らしい、素敵な思い出が出来ました！

男の子ホーム・かしの木は栃木県の那須高原へ行きました。川で自然に触れたり、トリックアートで不思議な写真を撮ったり、水遊園で様々な魚を観察したり…。とても充実した二日間を過ごす事が出来ました。宿泊したコテージは2階まであり、子どもたちにとっては珍しいようで大喜びでした。子どもたちにとっても職員にとっても良い思い出になりました！



男の子ホーム・もみの木は昨年・去年と同様に飯能でキャンプをしました。飛び込みや水切り、水鉄砲で遊び盛り上りました。次の日中高生はクライミングに挑戦。初めてで苦戦する場面も多かったですが登れるとガッツポーズし笑顔でした。小学生・幼児は遊具がたくさんある施設で体を動かして遊び、楽しい夏休みにすることが出来ました。

第20回埼玉県児童福祉施設親善球技大会

令和元年8月19日



去年の雪辱を果たそうと8月19日のソフトボール大会に向け個々やチームで練習を重ね、練習試合を何試合も実施し経験を積んで大会に臨みました。試合直前には高校3年生男子の呼びかけでミーティングをしたり、自主的に朝練をやったりと子ども達一人一人のやる気や成長を感じました。中学3年生のエースを中心に3試合戦い見事優勝！本大会で最後となってしまう高校3年生も活躍しました。応援の児童も暑い中3試合最後まで精一杯応援してくれて、チーム一丸となり勝利をつかむことが出来ました。頑張った子ども達に大きな拍手を送りたいです。



第三者委員からのお話・ガーデンパーティ

令和元年7月17日



交流ホールに集まって、第三者委員の森さん・河田さんから、子どもの権利や苦情解決の仕組みについて分かり易くお話しして頂きました。



第三者委員さんからのお話が終わった後は、中庭に移動です。駐在さんにも来て頂き、夏休みの注意を楽しく分かり易く話して頂きました。
感謝のお祈りをした後はガーデンパーティの始まりです。炭火焼き鳥や、焼きとうもろこし、キュウリの1本漬け、枝豆などのおいしいお料理と、流しそうめん大会にスイカ割と楽しい事が盛り沢山でした。
最後はかき氷を食べながら花火でフィナーレとなりました。



行事食（十五夜）

忙しく毎日を過ごしていると、気付かないうちに季節が移り変わっていってしまいかがちです。さんあいでは、食事を通して季節ごとの様々な行事を子ども達に伝えていきたいという思いから、年に何回かホームごとに行事食を作っています。



メニューは秋の味覚・栗ご飯、レンコンの揚げ物、なすのミートドリア、さんまの塩焼き、豚汁、スイートポテト。そして、手作りのお月見団子でした。

さんあいインタビュー

今回のさんあいインタビューは、さんあいに入職して26年目、
現在は里親支援専門相談員の任を担って4年目の
野田智彦職員にインタビューしました。



Q1 どんなことがきっかけでさんあい（児童養護の世界）で働くことになったのでしょうか？

大学卒業後、放送機器メーカーに就職した時にろうあ活動に参加し、福祉の現場で頑張っている方と知り合いボランティアとして手伝いをする機会が多くなるにつれて、自分も福祉の現場で頑張ってみたいと思ったことがきっかけで転職を考え説明会に参加しました。その説明会でお話を聞くことが出来たのがさんあいでした。

Q2：里親支援専門相談員の仕事について、いくつか質問させてください。



Q：里親支援専門相談員の仕事で一番大切にしていることは何ですか。

A：里親さんの話を聞き、活動に参加して、知り合うことです。

Q：里親支援専門相談員の仕事で一番大変なことは何ですか。

A：本音を言うと何をすれば正解なのか分からぬことです。

里親制度を広く知っていただくためにどうしたらいいのか。登録者を増やすにはどうしたらいいのか。委託里親の支援をどうしていくのがいいのか。未委託里親さんとどのようにかかわっていくといいのか。手探りでやっている状態です。

Q：里親支援専門相談員の仕事で一番嬉しかった事はなんですか。

A：何度も顔を合わせることで、今まで話していただけなかったことも話していただけるようになった時や、感謝の言葉をかけていただいた時です。

Q3：さんあいの歴史の中で、個人的に一番印象に残る事は何でしょうか。

旧園舎の増築です。

スーパーハウスを園舎から3mほど離して平行に置き、屋根・壁・床を手作りしたことです。

自分で作ることの楽しさや醍醐味を知った経験で、今の自分の原点だと感じます。



Q4：児童養護の世界で入職当時と現在で一番変化を感じるのは何でしょうか。

入職当時は、「子どもの様子がおかしい」と言われ始めた頃でした。当時は、どうして？どうしたらいいの？と何とかしたくてもどうにもできない状況でした。

現在では、子どもについて様々な角度から理解が深まり、虐待について、発達障害について、愛着障害についてと様々な障害でも子どもの成長に焦点を当てた関りが具体的に組み立てられるようになってきたことです。

第3回目

Q5：ストレス解消法を教えて下さい。



地域の太鼓サークルで太鼓をたたいています。

地域のお祭りやイベントに参加して気持ちのいい汗をかいています。



さんあいまつりでも、仲間と一緒に
太鼓を披露してくれました



Q6：職業人として、一番大切にしていきたい事は何ですか。

約束を守る事。工夫する事。



Q7：若い職員へのメッセージをお願いします。



夏みかんの活動で沢山の里親さんとのふれあいを目指しています。



子育てサロン夏みかんでも、子ども達と一緒に太鼓を楽しみました。



木工も得意です！

子育てサロン・夏みかん

9月の夏みかんは里親さんとの交流で沢遊びをしました。

まず、寄居町風布のやまき園の小屋に集まり昼食を食べました。食中毒対策はレトルトカレーで解決です。それそれが好みのレトルトカレーを持参し、ご飯は一升を現場で炊きました。電気なのであっという間です。お腹一杯になるとすぐに沢に移動。沢蟹を見つけながら上流を目指し、飛び込みのできる大きな岩までくると子どもたちは興奮気味に何度も飛び込んでいました。



デザートはかき氷。
高速回転で削られた氷は
サラサラとした雪の様で
くちどけが普段と違いました。



緊急一時保護ユニット・オリーブ

オリーブでは現在4歳から13歳までの子ども達が生活しています。最近は、常に定員がいっぱいです。一時保護中は学校へ行けない為、月～土曜日は学習時間があります。意外と自由時間は少ないですが、夏休みは自然体験やむさしの村、川遊びを楽しみました。そのほかにも9月はラウンドワンに行きました。日曜日は学習時間が無いので図書館などに出掛けたり、外では本園児童と一緒に鬼ごっこを楽しむこともあります。まだ暑さが残りますが、熱中症に気を付けて過ごしたいです。

ファミリーホーム・三愛茜の里

運動嫌いでインドア派の6年男子のK君が、今年の夏の世界柔道大会を見て、突然「中学で柔道部に入る」と言い出しました。又、柔道は嫌いと言っていた同級生のM君も「俺も柔道部に入って先に黒帯になる」と意気投合、早速、中学柔道部顧問の先生へ知らせることになりました。

11歳で、両親と暮らすことを拒否し、茜で暮らすことになったK君。夏休みが過ぎた頃、「中学生になったら家に帰れる?」と補助者に聞いてきました。ここの暮らしで家族とは何かを知り、素直にお母さんを想うことが出来たようです。その後、ここが楽しい、中学はここに居たいと会話をしていた事を知り、とても嬉しくなりました。子ども達の成長を楽しみに、共に暮らして行ける喜びを、改めて感じました。支援者の方々に置かれましては、これからも茜の里を暖かく見守って頂ければ幸いです。



社会的養護関係施設 第三者評価

9月9日、10日に第三者評価を受審しました。第三者評価とは、第三者評価機関の評価調査者が施設運営の質を評価し、施設の現状や課題を明らかにする事で、質の向上や施設職員の気づきを促すことを目的としています。

第三者の視点で評価して頂く事で課題に気付き改善していくのはもちろんですが、日々の業務を評価して頂く事で職員としても自信を得るきっかけにもなっています。第三者評価の内容をフィードバックして頂きましたが、施設理念の認識に関して、全職員が認識出来ていると回答していた事を高く評価して頂きました。施設の根幹となる理念に関しては、毎年行われている一泊研修で確認していますが、その効果が表れているのではないかと考察して頂きました。

子どもとの関わりに関しては課題に気付き、どのように克服出来るようにするか試行錯誤する毎日です。しかし今回第三者評価で施設の取り組みを評価して頂いたように、子どもの課題を改善しようとするばかりではなく、今出来ている事や強みに対し、どれだけ目を向け評価してあげ事が出来ているのかを振り返るきっかけとなりました。

さんあいの第三者評価結果に関しては、全国社会福祉協議会 HP にある社会的養護施設第三者評価結果に公表されます。さんあいHPにも近日中にアップいたしますので、是非ご覧ください。

千葉台風被害のための募金

9月は多くの方々や団体から寄付金や品物を頂きました。玉ねぎ、お米、布団、衣類等が地域や遠方より頂き、さんあいが多くの方々に支えられていることを実感しております。

さて、さんあいの養育目標は「思いやりのある子」です。この実践として、なるべく子どもたちには思いやりのある行動の実践を奨励しています。その一つとして、数年前より被災地への募金をしています。昨年は、西日本豪雨被災地と北海道地震被災地のために募金しました。そして今回は台風被害にあった千葉県の方々のために職員と子どもたちで募金を開始しました。被災地では、この文章を書いている時点でも、電気や水道水が通っていない世帯もある様です。

聖書には、「受けるより与える方が幸いである。」とあります。確かに人の幸せは、与えることの中にあることは真理です。誰かの役に立っている、頼られていると思える場所のある人は、「自分の居場所がある」と実感します。つまり自分の存在を認めてもらえた時に人は幸せと安心を感じるように神様に創られています。

日本にも、「情けは人のためならず」と言う言葉があります。これは、「情けをかけてあげることは最終的には自分に帰ってくることだよ、自分が幸せになることだよ。」という、深い真理と処世術を昔の人が教えたものです。千葉県の被災された方々のお役に立ちたいという願いと同時に、さんあいの子どもたちと職員も幸せになって欲しいという思いを込めて、今回の募金を送りたいと思います。



むさしの村

むさしの村 50 周年記念イベントに招待して頂きました。小学生グループと幼児さんグループで 2 日間に分けて行ってきました。初めに大きなヒマワリや、ナスとキュウリ採りの体験を行い、コイのえさやりも興味津々で見ていました。遊園地では汽車や観覧車に乗ったり、ジェットコースターやゴーカートで風を切って走ったり、お化け屋敷に挑戦するグループもあり、楽しい夏の思い出になりました。

(佐藤透子)

高校 3 年生の進路

今年度は 4 人の児童が高校 3 年生となり、来年の春には新しい場所での生活をスタートします。今年度は進学希望者が 2 名、就職希望者が 2 名で、各々が自分たちの進路を真剣に考えている時期ですが、そんな中でも自立というテーマは全員に共通する課題であり、職員も子ども達の自立に向けて孤軍奮闘する毎日です。さんあいにいる間に少しでも多くのことを教えていただけたらと思います。

(加藤碧)

アンガーマネジメント研修

9月 11 日コンパスナビから講師を派遣して頂き、近隣の施設職員も一緒にさんあいで研修を行いました。

「怒り」という感情は誰もが持つものであり、生きていく上で必要な感情です。大切なことは、自分が感じている怒りと向き合いコントロールすること。これは子どもへの支援の中でとても重要な意識です。今回全職員で学べたことは必ずチーム力向上に繋がると感じました。怒りは第 2 次感情であり、怒りに変わる前の第 1 次感情が必ずあります。6 秒の衝動コントロールと共に、まずは自分の第 1 次感情を分析し、その感情を相手に伝えることを実践してみようと思います。

(青木統括)

いちょうの広場



K 君のお土産

小学 4 年生の K 君が学校行事で社会科見学に行った時に自分のお小遣いで、さんあいで飼育しているボニー(犬)のご飯を買ってきてくれました。ボニーは K 君がお土産に買ってきていたご飯をとても美味しそうに食べ、それを見た K 君も嬉しそうでした。自分の物を買って一人で楽しむことも出来たのに、ボニーのことを考えて行動した優しさにとても嬉しく、優しい気持ちになりました。

(平松)

さんあいの畠

今年の梅雨は日照時間が短かったのでサツマイモの苗がなかなか育ちませんでしたが夏休み後半からはどんどん成長して今では畠一面サツマイモの葉でいっぱいです。夏野菜はキュウリ、ナス、トマト、ゴーヤを育てました。キュウリが好きな子と一緒に収穫してキュウリをホットドックにして丸かじりしました。ホットドックと言ってもパンは使いません。一本丸まるのキュウリにたっぷりマヨネーズをかけただけのものです。ワイルドでしょ♪ !

(野田)

うどん打ち体験

毎年この時期になると、第三者委員の河田先生より、無農薬の小麦を頂きます。この小麦を製粉し、今年はうどん打ち体験イベントを実施しました。

自分の分は自分でということで、ビニール袋で小麦粉と水を合わせ捏ね、昔ながらの製麺機のハンドルを回し、生地が麺になっていく様子に感動しながら作り、エコの日の食事として美味しく頂きました。生きた食育を実施でき、良い体験となりました。

(坂田)



いつもあたたかいご支援ありがとうございます。

ご寄付は右記の口座にお願いします。*お名前をお入れください* 埼玉りそな銀行 岡部支店 0058888

編集後記

毎日賑やかな子ども達の声が響いていた夏休みが終わり、1 ヶ月が経ちました。今年も大きな事故やケガも無く、みんな無事に 2 学期が迎えられたことに感謝です。朝晩の涼しい空気が一気に秋めいてきました。抜けるように澄み切った青空を見ると、じっとしていられなくて外に飛び出したくなってしまう今日この頃です。

(広報タスク一同)